

INSPIRE No.35



ギフトッドサポートグループミーティング

テーマ:「ギフトッド101 - ギフトッドの基礎知識。最新のアメリカのギフトッド事情」
皆さんはギフトッドという言葉聞いた事がありますか。

米国では「生徒、児童、若者に対してギフトッドおよびタレンティッドという言葉が用いられた場合、知性、創造性、芸術、リーダーシップ、あるいは特定の学術分野において高い潜在能力を示し、また、そうした能力をフルに開発するには通常の学校教育にはない支援や活動を必要とする子供、生徒、若者を意味します。」という定義を用い、ギフトッドの生徒たちは必要な教育を受けています。しかし、欧米に比べて、日本ではまだギフトッドの概念が薄く、ギフトッドの子供達を対象に、それぞれの子供が持つ才能を開花させるプログラムや教育機関はまだ多くはありません。同時に、ギフトッドの子供達とその保護者が必要な感情面や教育面でのサポートも少ないです。ギフトッドについて知りたい方、是非ご参加ください。

日時: 1月13日 (土)

時間: 9:30 - 12:00

費用: 1,000円

対象者: 保護者、教育関係者、医療関係者

場所: スクエア荏原の第3小会議室

住所: 東京都品川区荏原4-5-28 (武蔵小山駅徒歩10分)

お申し込み: office@jagifted.org

是非ご参加くださいませ！

洗脳

世界的に見ても安全で便利で、何を食べても美味しくて、素晴らしい我が母国の日本。国民は親切で控えめで、みんなが一丸となって、同じ価値観や同じ方向へ、疑うことなく動くのが日本人。世界的に見ても、こんなにも統一感のある人種は他に類を見ないそうです。

「あ——日本人に生まれて、良かった！！」

しかし、同じ日本人でもこの子たちはちょっと違いますか？日本人だけど息苦しくて生き辛さ満載、まるで日本という暗黒帝国に潜む異星人みたい？

ギフトッドは、自分で考えることが出来ます。意味や意義を見出せないことには、子供といえどもNO！が言えるのです。もちろん相手が大人や教師や先輩等、目上の存在であったとしてもNOが言えますよね？そう、この子たちには、農耕民族に効果的な、いわゆる「洗脳」が効きません！

定型発達児は、いとも簡単に洗脳が通用します。与えられた仕組みやルールに、素直に何も疑うことなく従えます。そういうものだとして理解し、たった一つの目指した方向へ向かえます。自ら考える能力がだんだん鈍くなるのも気づかずに、洗脳されていくのではないのでしょうか？集団やレールから外れることへの恐怖感を刷り込まれ、突出することなく平均化されて、間違っている事でさえも、傍観してことなかれ主義を貫き、NOが言えない洗脳された大人になっていくように感じるのは私だけでしょうか？

例えば運動会。キッチリと予行練習して、大人たちを喜ばせるために一致団結して行進や応援練習をします。教師の台本通りです。

例えば卒業式。キッチリと予行練習して、大人たちを喜ばせるために一致団結して卒業証書授与や合唱練習をします。教師の台本通りです。

例えば避難訓練。キッチリと予行練習して、もし災害にあったとしても整列して、全員で避難し教師の言うとおりに行動します。教師の台本通りです。

例えば大地震。キッチリと避難訓練の予行練習どおりに行動して、本当の大地震でさえも指示に従い教師の言うとおりに、個人行動はせず高い所に勝手に登らないで全員が亡くなります・・・・・・。ん？これでは台本とは違いますか？

東北大震災や隣の国セオール号の悲惨な事故等、助かったかもしれない命。大切な命を犠牲にしてまでも、指示に従いみんなと同じ行動をするのは良い事なのでしょうか？災害や命に関わるときやいざというときでさえも、自ら考えて行動に移すことが出来なくなるのです。それが長年の教育という名の「洗脳」だと思いませんか？

さて、ここで問題です。生き残る親孝行者は誰？（正解は最後に！）

避難訓練の台本どおりには行動しないので、この子たちは自分の命は自分で守ることが出来ます。なんてすばらしい子供たちなのでしょう！今は悩み真っ最中のお母さん、悩む必要は全くなしです！なぜなら、あなた自身の長年の教育的洗脳が解き放たれたのは、レアな特徴を持った素晴らしい子どもを産んだおかげなのだから。

（正解 ギフトッド）

- M.I.

「ギフティッドという言葉でなくてよい」

ギフティッドという言葉は教育ラベルにしかすぎないということ。

まだまだ、ギフティッドという言葉が、医療用語のように使われますが、その理由は、ギフティッドという言葉が教育者からではなく、医療関係者から聞いている保護者が多いからではないでしょうか。そして、「ギフティッドと診断されました」という言葉も違和感があります。診断とは、「医者が患者を診察して、健康状態、病気の種類や病状などを判断すること」すなわち、医学的な意味があります。だから、もし「医学的診断」だとすると、その診断の基準、または、もとになっている診断基準があるはずです。それは果たして何でしょうか。

**ギフティッド教育者が口を揃えている言葉。
それは、”Meet their needs - ニーズを満たす”**

一般のカリキュラムでは、知能面、学習面、身体面、感情面というあらゆるレベルで挑みきれない子供たちがいます。正直、ギフティッドという言葉でなくても良いのです。他にどんなラベルがありますか。そもそもそういったラベルも必要がないかもしれません。

「Meet their needs - ニーズを満たす」それは学習面でのチャレンジかもしれません、また、ソーシャルエモーショナルのサポートかもしれません。自分の得意分野以外でのチャレンジかもしれません。目の前にいる子供に挑むこと。

きっと、それでもギフティッドという言葉に囚われるのであれば、それはこの言葉が持つイメージに囚われているのではないのでしょうか。「優れている」や「エリート意識」が、この言葉に含まれているからなのでは？ 私たちがこだわらなくてはならないのは、言葉じゃありません。いかに、ギフティッドと見極められた子供たちに挑むかです。そして、学校生活において、レーダーの下をくぐっていかないように挑むことです。騙し騙し学校に通わせないことです。

ギフティッドのことをよく知っている保護者、周りの大人はアドボケイターとなり、彼らにとって適切な教育環境を提供しなくてはなりません。

**ギフティッドは「diagnosis - 診断」ではなく、
「identified - 見極められる」という言葉を使います。**

そして、

**ギフティッドが意味すること、それは「Promise - 約束」ではなく
「Potential - 潜在」ということです。**